**第５５回　高体連北見支部新人弓道選手権大会**

**兼　第４０回　北北海道高等学校弓道選抜大会北見支部予選会**

**開　催　要　項**

１　主　　催　　北海道弓道連盟北部地区

２　共　　催　　北海道高等学校体育連盟北見支部

３　後　　援　　北見地区弓道連盟　斜里町弓道会

４　主　　管　　北海道高等学校体育連盟北見支部弓道専門部

５　当 番 校　　北海道網走桂陽高等学校

６　会　　場　　斜里町武道館弓道場

　　　　　　　　北海道斜里郡斜里町朝日町20－18　　TEL 0152－23－0345

７　大会期日　　平成30年９月13日（木）～14日（金）２日間

８　大会日程　　９月13日（木）　9:00 監督・主将会議（斜里町武道館交流室）

　　　　　　　　　　　　　　　　10:30　選手集合・開会式・矢渡し

　　　　　　　　　　　　　　　　11:00　競技開始

1. 個人戦　予選１立目　　　男･女とも各４射　　立射
2. 個人戦　予選２立目　　　男･女とも各４射　　立射
3. 団体戦　１次予選１立目　男･女とも各４射　　立射

　　　　　　　　　　　　　　　　17:40　１日目終了予定

　　　　　　　　９月14日（金）　9:00　集合

　　　　　　　　　　　　　　　　 9:30　競技開始

1. 個人戦　決　　勝　　　　男･女とも射詰競射　坐射
2. 団体戦　１次予選２立目　男･女とも各４射　　立射
3. 団体戦　２次予選　　　　男･女とも各４射　　立射
4. 団体戦　決勝リーグ　　　　　　　　　　　　 坐射

　　　　　　　　　　　　　　　　15:00　競技終了予定・閉会式

　　　　　　　　　　　　　　　　16:00　全日程終了予定

９　競技規則

　　　　（１）役　員　　各校弓道部顧問、当番校教職員

　　　　（２）審　判　　イ）審判長　支部弓道専門委員　中西　竜太郎

　　　　　　　　　　　　ロ）審判団　各校弓道部顧問

　　　　（３）行　射　　坐射とする。**ただし、個人予選及び団体戦１次予選・２次予選は立射とする。**

　　　　　　　　　　　　原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案、北海道高等学校

　　　　　　　　　　　　弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。

10　競技参加人数

　　　　（１）個人戦　　男女それぞれ１校８名まで出場できる。 ただし、８名の中には団体戦出場

　　　　　　　　　　　　者を含む。介添生徒は１名とする。当番校の個人戦への出場人数は、８名の

他にもう８名までの出場を認め、他の個人選手と同様の資格を与える。ただ

し、その８名の団体戦への出場は認めない。

　　　　（２）団体戦　　男女それぞれ１校３名で１チーム編成とする。補欠は２名とする。 ただし、

　　　　　　　　　　　　チーム編成は２名であってもチームとして認める。介添生徒は１名とする。

11　参加資格

　　　　（１）北海道高等学校体育連盟北見支部加盟校の生徒であること。

　　　　（２）「高体連主催大会参加者災害補償制度」に加入した者、または加入の意思のある者。

　　　　（３）平成30年度の在籍学年が第１学年・第２学年であること。ただし、同一学年での出場

　　　　　　　は１回限りとする。

12　引　　率　　引率者は各校の校長が認めた教員であること。

13　参加申し込み

　　　　（１）個人情報について

　　　　　　　大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の

　　　　　　　目的に利用することはない。

　　　　（２）メール送信および郵送をお願いします。

　　　　　　　①**メールアドレス 　h-hamamoto@hokkaido-c.ed.jp（北海道スクールネット)**

　　　　　　　　なお、申込用紙は、本校ＨＰ(http://www.abashirikeiyo.hokkaido-c.ed.jp/)「当番校より」からダウンロードできます。

　　　　　　　②**送付先　〒093-0084　網走市向陽ヶ丘６丁目２番１号**

　　　　　　　　**北海道網走桂陽高等学校　弓道大会事務局　宛（担当者：浜本秀樹）**

1. **申込期日　メール送信　　　 平成30年８月21日(火)　必着**

　　　　　　　　**郵　送　　　　　 平成30年８月23日(木)　必着**

　　　　　　　　　　　　　 ※メール送信後、必ず正式書類を郵送して下さい。

14　参 加 料　出場選手１名につき８００円を大会当日の監督･主将会議受付にて納入してください。

15　立順抽選　８月28日（火）、網走桂陽高校会議室において、大会委員長（網走桂陽高等学校長）、北見支部専門委員、大会事務局員の立ち会いの下で厳正に抽選します。参加申込時に使用したメールアドレス宛に、抽選結果を送信して報告します。

16　宿　　泊　斡旋はいたしませんので、各校で手配してください。

17　表　　彰　団体戦および個人戦ともに男女第３位まで賞状を授与し、表彰します。

18　その他

　　　　（１）練習会場について

　　　　　　　９月12日（水）１２：００～１６：００まで、斜里町武道館弓道場を開放します。練習会場

　　　　　　　は１２人立ちです。各高校顧問または引率教員が必ず付き添うようお願いします。

　　　　（２）開会式について

　　　　　　　プログラムに記載されている通りに早めに整列してください。なお、個人戦予選の立順が早

　　　　　　　く指示された選手は開会式終了後、ただちに準備を行い点呼場所へ集合してください。

　　　　（３）本大会に関する問い合わせは、網走桂陽高校　浜本秀樹　または　櫻井英世　まで。

　　　　　　（ 網走桂陽高校　Tel 0152-43-2930　Fax 0152-43-3087 ）

19　弓道競技

　　　　（１）種　目　　近的競技

　　　　（２）種　別　　男子の部、女子の部

　　　　（３）種　類　　イ、団体戦（３人立ち）　ロ、個人戦

　　　　（４）的　　　 直径３６ｃｍの霞的を使用し、射距離は２８ｍとする。

　　　　（５）支部大会と北北海道大会との関係

　　　　　　　団体　支部大会の参加校が４校以下の場合は１校、５～８校の場合は２校、９～１２校

　　　　　　　　　　の場合は３校、１３～１６校の場合は４校、１７校～２０校の場合は５校、２１

　　　　　　　　　　校以上の場合は６校までが北北海道大会に出場することができる。

　　　　　　　個人　支部大会の参加校が４校以下の場合は４名、５～８校の場合は６名、９校～１２

　　　　　　　　　　校の場合は８名、１３～１６校の場合は１０名、１７～２０校の場合は１２名、２１

　　　　　　　　　　～２４校の場合は１４名、２５校以上の場合は１６名までが、北北海道大会に出場することができる。（開催地区枠は平成27年度より廃止）

　　　　（６）競技方法

**＜団体戦＞**

**１次予選**

　　　　　　　・各自四ツ矢１立計１２射を１立目といい、更に各自四ツ矢１立計１２射を２立目とい

　　　　　　　　い、合計２４射を行う。

　　　　　　　・的中数上位６校が２次予選に進むことができる。ただし、下位同中校が出た場合は各

　　　　　　　　校一矢ずつの一本競射を行い、上位６校を決定する。

　　　　　　　・団体戦に出場する選手は原則として３名でチーム編成するが、２名であってもチーム

　　　　　　　　として認める。ただし、１校１チームで男女混合は認めない。

　　　　　　　・補欠は２名とする。

　　　　　　**２次予選**

　　　　　　　・各自四ツ矢１立計１２射を行い、１次予選の的中数と合わせ、合計３６射の総的中数

　　　　　　　　上位４校が決勝リーグに進むことができる。その際、下位同中校が出た場合は各校１

　　　　　　　　矢ずつの一本競射を行い、上位４校を決定する。

　　　　　　**決勝リーグ**

　　　　　　　・組み合わせ抽選を行う。抽選は１次予選・２次予選の総的中数順とし、同中の場合は

　　　　　　　　立順が先のチームからとする。

　　　　　　　・リーグ戦形式とする。（試合順序は次の通りとする）

　　　　　　　　　イ：男子第１試合、男子第２試合　　ロ：女子第１試合、女子第２試合

　　　　　　　　　ハ：男子第３試合、男子第４試合　　ニ：女子第３試合、女子第４試合

　　　　　　　　　ホ：男子第５試合、男子第６試合　　ヘ：女子第５試合、女子第６試合

　　　　　　　・各自四ツ矢１立計１２射を行い、対戦校との的中数によって勝敗を決定する。同中の

　　　　　　　　場合は、各校一矢ずつの一本競射を行い、的中数の差が生じるまで続ける。

　　　　　　　・順位の決定は次のとおりとする。

　　　　　　　　　イ．勝ち点の多いチーム

　　　　　　　　　ロ．勝ち点が同点の場合、リーグ戦の合計的中数による。

　　　　　　　　　ハ．ロによっても決しない場合、対戦成績による。

ニ．ハによっても決しない場合、予選の合計的中数による。なお、予選の的中数とは

　　　　　　　　　　　１次予選・２次予選を合わせた合計３６射をいい、競射は含まない。

　　　　　　　　　ホ．ニによっても決しない場合、１人１射の競射による。

　　　　　　**制限時間**

　　　　　　　・坐射は７分、立射は６分以内とする。（弦切れ、その他の事故が生じても、時間の延長は

　　　　　　　　認めない）

　　　　　　　・坐射は６分３０秒、立射は５分３０秒で計時係が「３０秒前」の合図を告げる。

　　　　　　　　※制限時間の「３０秒前」でベルを１度振鈴させ、「制限時間」でベルを２度繰り返して振鈴させる。監督主将会議および開会式にて監督・選手へ周知する。

　　　　　　　・制限時間以内に「離れない矢」は無効とする。

　　　　　　　　※坐射７分（立射６分）のベルは制限時間となったことを知らせるものなので、振鈴してから「離れた矢」は無効となる。

　　　　　**＜個人戦＞**

　　　　　　**予　選**

　　　　　　　・各自四ツ矢２立、８射を行い、男女とも５中以上が予選通過者となり、決勝に進出できる。

　　　　　　　・予選参加者は、各校団体戦登録者５名と個人戦登録者３名の計８名以内（当番校はこれに加えてさらに８名以内）とする。

　　　　　　**決　勝**

　　　　　　　・射詰で順位を決定する。

　　　　　　　・射詰は９射目より八寸的（星的）にて行う。

　　　　　　　・優勝決定以外の競射は遠近法で順位を決定する。

　　　　（７）入場と退場

　　　　　　　・「お支度」または「ご用意」の指示後は直ちに点呼と弓具の点検を受ける。

　　　　　　　　※本大会は第三控が点呼場所となります。

　　　　　　　・「お控え」の指示後は進行係の指示により着席する。

　　　　　　　・進行係の「起立」の合図で立ち、「はじめ」の合図で一斉に「揖(ゆう)」をして本座へ進む。

　　　　　　　・射場へ入退場する際は、揖をする。射位から退場口に向かう際は必要としない。

　　　　（８）矢返し

　　　　　　　・矢返しは四ツ矢が終わるごとに行い、１本ごとの矢返しは認めない。

　　　　　　　・各自四ツ矢と損傷の際の替え矢（２本）を準備すること。

　　　　（９）選手の交替

　　　　　　　・団体戦のみ認める。補欠は２名までとする。

　　　　　　　・補欠登録選手のみ交替させることができる。補欠登録選手は交替する選手の立順に入る。

　　　　　　　・いったん外された選手は補欠となるので、再度交替する時は外される前の立順にこだわらず、どの立順と交替しても良い。

　　　　　　　・交替の時期は監督主将会議または自校の競技出場３０分前とする。また、団体戦１次

　　　　　　　　予選１立目の交替は個人予選１立目が始まる前、団体戦１次予選２立目の交替は個人

　　　　　　　　戦決勝が始める前までとする。交替は所定の選手交替用紙に記入の上、監督を通じて

　　　　　　　　競技委員長に届け出る。ただし、一度決定した選手は、それぞれの行射が終了するま

　　　　　　　　で変更できない。

　　　　（10）競技服装

　　　　　　　・弓道衣は白、袴は黒または紺の無地とし、白足袋を着用のこと。

　　　　　　　・弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の無地とする。

　　　　　　　・弓道衣に校名・校章および各都道府県のシンボルマークを入れる場合は、片方の腕に

　　　　　　　　限る。ただし、大きさは縦横１０ｃｍ以内にすること。

弓道衣・袴・白足袋が原則であるが、申し出により下記の服装を認める。ただし、

団体戦でのチームの服装は統一すること。

　男子…シャツは白とする。ズボンは紺または黒の無地とし、校服のズボンでもよ

　　　　い。胸当は禁止する。

　女子…シャツは白とする。スカートは紺または黒の無地とし、校服のスカートお

　　　　よびズボンでもよい。

　※男女ともランニング、衿線入り等のシャツは使用してはならない。靴下は白を

　　使用すること。

　　　　　　　・鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。なお、校名・校章・氏名・団体登録

番号に限り入れてもよいが、場所は鉢巻の端とする。

　　　　　　　・頭髪が弦に当たる恐れがある時は、鉢巻を強制する場合がある。

　　　　　　　・胸当は無地とし校名・校章、その他を入れてはならない。

　　　　　　　・リボン・ピアスなどの装身具類は着用しないこと。

　　　　　　　・ゼッケンを下記の要領で作成し、本部席に見える側の腰につけること。

イ．布地は白、学校名は黒、男子選手番号は黒で女子

　　選手番号は赤で記入する。

ロ．選手番号は、チーム内の立ち順（１～８）とする。

ハ．ゼッケンの位置は右図点線の部分とする。

ニ．規格および記入例



○　○　高　校

１

18cm

12cm

チーム内立順番号

**【競技規則上の参考】**

　　　（１）原則として全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案、北海道高等学校弓道大会競技規則、および申し合わせ事項を参考とする。

　　　（２）前立ちの者より早く離れた矢は無効とする。また、「３０秒前」の合図後における前立の者より早く離れた矢も無効とする。

　　　（３）参加資格のないものがチームの中にいた場合はそのチームの出場を停止することがある。また、失格とすることもある。

　　　（４）選手交替の承認されない者がチームの中にいた場合は、停止または失格とする。

　　　（５）定められた「控え席」に選手が着いていない場合は、欠員のまま行射を行う。また、その選手は出場放棄とみなす。

　　　（６）矢番え後の筈こぼれ、また矢を落とした矢こぼれの場合は「失」とする。

　　　（７）失は無効とするが、前立ちや後立の射手の弓矢が触れ、矢こぼれが生じた場合はやり直しを認めることもある。その場合の前立ちや後の射手の処置については失格とすることもあるが、審判団に判断を委ねる。

　　　（８）射場にある場合、選手は私語を慎み、また奇声を発してはならない。また、観覧している者やマネージャー席から声による指示をしてはならない。野次ってはならない。

　　　（９）監督は、あたり・はずれの異議の申し立てをすることが出来る。異議の申し立ては矢を抜き取る前にすること。（監督または介添の生徒は監督章・介添章を付け、それ以外の者の異議申し立ては認めない）

　　　（10）制限時間には、弦切れのための弦の張り替え時間も含む。従って、弦切れの際は速やか

　　　　　　に交換できるようにしておくこと。

**【注意事項】**

　　　（１）前後の選手に対して、弓などで教示したり助言したりしないこと。

　　　（２）会場内では不必要な声を発しないこと。

　　　（３）矢を落とし「失」となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾い、自分の体と平行に右前に置くこと。それを進行係が引き取り監督に渡すこと。なお、４射目の場合は選手が持って退場する。

　　　（４）競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内では進行係がその指示を行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去し、係が指示する。（この間は計時を行わない。）

　　　（５）個人戦・団体戦の各予選終了直後、射詰競射がある場合は、会場の放送に注意し、指示後は速やかに四ツ矢を持参して召集場所にて待機していること。

　　　（６）同中競射および射詰の時は、１矢終わるごとに自分の席に戻ること。残りの矢は、自分の席に置いて行射すること。

　　　（７）個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係に従うこと。

　　　（８）団体１次２次予選とも、下位同中校が出た場合、男子・女子の競技が終わり次第、一本競射を行うので、競技進行に注目し、召集に遅れないようにすること。

　　　（９）射場内では、執弓の姿勢を保つこと。また、体配を乱さないようにすること。

　　　（10）観戦する際は厳粛な態度であること。

　　　（11）要項に定められた服装でも、チーム内では統一すること。

**【監督主将会議の申し合わせ事項について】**

　　　※以下の項目は今後、専門委員と協議し監督主将会議の議題とし、その席で確認・修正あるいは

　　　　削除した上で「申し合わせ事項」とする。

　　　（１）全道大会（北北海道大会）出場校が辞退しても、次点繰上げは行わない。

　　　（２）行射する際には、取り矢にて行う。

　　　（３）弓に故意に照準をつけている場合は、覆わせる。

　　　（４）矢のかみ直しは、認めない。

　　　（５）取懸け後の矢こぼれは失権とする。取り懸け後とは、矢を番えた後に右手を右腰に添えた時とする。（右手を右腰に添えなかった場合は、坐射では立ち上がり始めた時点＝本弭が床から離れた時点を、立射では本弭が膝から離れた時点を取り懸け後とする。)

　　　（６）的に中ってはね返った矢は、的中とする。（ただし、仮設安土道場のみとする。）

　　　（７）皆中の拍手、的中時の「よし」のかけ声は認める。

　　　（８）弦切れの場合の張り替えは原則として顧問・監督が行うが、できない場合は進行係が行うこと。ただし、これによって制限時間が超過することがあっても抗議は認めない。

　　　（９）女子のリボン使用は認めない。また、ゴム輪を使用する場合は派手なものを避ける。

　　　（10）監督・主将会議等での選手交替は行えるが、立順の変更（例．１的→３的、３的→１的）は認めない。

　　　（11）団体戦において１矢ずつの射詰競射の時に、選手交替は認めない。

　　　（12）予備矢は持参することが望ましいが、支部大会では強制はしない。ただし、全道大会（北北海道大会）では持参しないと、失格となりうる。

　　　（13）当番校の個人戦への出場人数は、８名の他にもう８名までの出場を認め、他の個人選手と同様の資格を与える。ただし、その８名の団体戦への出場は認めない。また、立順は各参加校が終わった一番最後とする。

　　　（14）ふで粉、ぎり粉などは、射場内や射場内の控で付けないこと。

　　　（15）監督が審判などで介添に入れない場合、監督章・介添章を付けた選手が代理として介添に入ることが出来る。よって、弦切れの際の弦の張り替え、的中の異議申し立ても認める。

　　　（16）伝統的な押し手補助具（拇、人差指の2本指と拇のみの１本指がある）や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押し手にはその他のものをつけてはならない。キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。サポーターの使用は、肘のみ認める。色は白・黒・紺・ベージュとする。手首のサポーターやテーピングの使用は禁止とする。怪我の場合については本部に申請して許可を得ること。

　　　（17）かけ留めの使用は認めない。

　　　（18）留学生の参加は認めるが、個人戦のみとし、事前に監督主将会議で了承を得ることとする。

　　　　　　その選手が入賞しても全道大会（北北海道大会）への参加は認めない。その場合があれば、

　　　　　　次点繰り上げで全道（北北海道）出場選手を決定する。